

2.6 台風の変動⁴⁴

台風の変動の特徴は以下のとおりである。

- 2023年の台風の発生数は17個で、平年より少なかった。
- 台風の発生数に長期変化傾向は見られない。

2023年の台風の発生数は、平年より少ない17個（平年値⁴⁵25.1個）だった。1951～2023年の統計期間で台風の発生数には長期変化傾向は見られない（図2.6-1）。2023年の日本への台風の接近数⁴⁶は9個（平年値11.7個）で平年より少なく、上陸数⁴⁷は1個（平年値3.0個）だった。発生数と同様に、接近数には長期変化傾向は見られない。上陸数は年あたり2、3個程度とサンプル数が少ないため、長期変化傾向を述べるのは難しい（図2.6-1）。

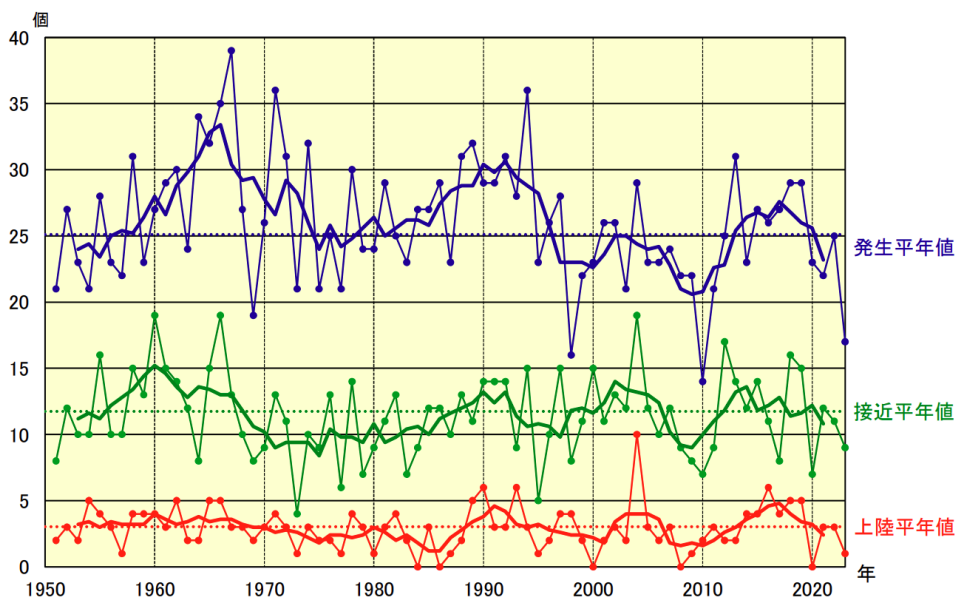


図 2.6-1 台風の発生数、日本への接近数・上陸数の経年変化（1951～2023年）

青：発生数、緑：接近数、赤：上陸数。細線は各年値、太線は5年移動平均値、点線は平年値（1991～2020年の30年平均値）を示す。

⁴⁴ 熱帯または亜熱帯地方で発生する低気圧を熱帯低気圧といい、そのうち北西太平洋または南シナ海に存在し、低気圧域内の最大風速（10分間の平均風速）がおよそ17m/s以上のものを日本では「台風」と呼んでいる。また、台風の最大風速により、勢力を「強い」（33m/s以上44m/s未満）、「非常に強い」（44m/s以上54m/s未満）、「猛烈な」（54m/s以上）と区分している。

気象庁ホームページでは、統計を開始した1951年以降に発生した台風に関する様々な統計資料を掲載している。<https://www.data.jma.go.jp/yoho/typhoon/statistics/index.html>（台風の統計資料）

⁴⁵ 平年値は1991～2020年の平均値。

⁴⁶ 「接近」は台風が国内のいずれかの気象官署等から300km以内に入った場合を指す。

⁴⁷ 「上陸」は台風が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を指す。